

【徳島県】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本県では、学習指導要領と中教審答申を踏まえ、1人1台端末と ICT 環境の効果的な活用に重点を置く。一点目は、全ての子どもたちが興味や特性に応じ、自ら学びに向かい、課題を発見・探求・解決できる姿の実現である。一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様な学びと支援を提供し、主体的な学びを促す。二点目は、全ての子どもたちが多様な他者との関わりを通して、互いを尊重し協力し合いながら共に学びを深める姿の実現である。交流及び共同学習を推進し、共に生きる力を育む。これからの時代を生きる子どもたちには、自ら考え判断する力と、多様な他者との相互理解と協力する力が不可欠である。インクルーシブな社会の実現に向け、これらの力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを目指す。教育委員会、学校、教師、子どもたち、保護者、地域社会が一体となり、教育改革を進めていく。

2. GIGA 第1期の総括

県内学校では、整備された ICT 機器を積極的に活用してきた。GIGA スクール構想第1期当初は、学校間の活用格差や教員の意識差が課題となり、子どもたちの ICT スキルに差が生じていた。この課題に対し、全教職員への ICT 研修や関連事業への全体的な取り組みを実施した結果、活用格差は縮小傾向にある。第2期では、学校間の教育やスキル提供の差をなくすため、学校の ICT 活用率の向上・平準化を目指す。同時に、教職員の指導力向上と意識改革にも継続して取り組んでいく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

教員研修によって、1人1台端末利活用の意義・目的を深く理解させ、授業実践演習を通して端末活用における学校間・学級間の格差是正を目指す。

ICT 支援員の配置によって、教職員が ICT 活用へ積極的に取り組める環境を整備する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が資料共有や相互参照をスムーズに行えるよう、県域のアカウントを発行し、学習支援ツールを効果的に活用し、協働的な学びを充実させる。

Google Workspace for Education の各種サービス利用を促進し、教職員と児童生徒が日常的に資料共有や課題提出を行えるようにする。

Google Workspace for Education の各種サービス利用を促進し、教職員と児童生徒が日常的に資料共有や課題提出を行えるようにする。

(3) 学びの保障

アンケートツール等を活用し、日常的な「心の健康観察」を実施する。これにより児童生徒の心身の状態を把握し、教職員からの声かけや教育相談といった適切な支援につなげる。

希望する不登校児童生徒には、端末を活用した授業参加・視聴の機会を提供し、誰一人取り残さない学びを実現する。